

## Contents

工芸センター創立 70 周年にあたって P1

技能実習・講習会の開催 P2

実習コース、座学コース

試験室だより P5

$\alpha$ -オレフィン系と水性ビニルウレタンの接着強度比較

窯業研究室の取組 P7

三角座標を用いた灰釉の調合テスト

技能五輪全国大会への出場 P9

旭川地域の木工職人たちの健闘

各種イベント・展示会 P10

工芸センター・オープンファクトリー 旭川陶芸フェスティバル  
旭川木工技能競技大会 旭川冬のやきもの市  
旭川木彫・工芸品協会展 クラフト展 in ニセコ

周辺自治体との連携 P13

旭川市と音威子府村の木工芸の継承普及に向けた連携協定  
旭川大雪圏域連携中枢都市圏での連携

製造業実態調査の結果概要 P13

家具・建具製造業の令和 6 年度の状況

お知らせ P14

料金改定のお知らせ  
工芸センター運営委員会  
人事異動報告

工芸ニュース web 版はカラーでご覧いただけます▶



# 旭川市工芸センター 創立70周年にあたって

旭川市工芸センター所長 内田 和博

令和7年4月、旭川市工芸センターは、創立70周年という大きな節目を迎えました。

昭和30年、戦後10年目の旭川において、家具や木製品、窯業など地域に根差したものづくり産業の技術向上と人材育成を目的に設立されて以来、私たちは一貫して「人を育てること」を産業振興の根幹に据え、地域とともに歩んできました。

旭川家具をはじめとするものづくりの発展を振り返ると、その歩みは常に人づくりとともにありました。高度経済成長期における生産技術の高度化、デザイン導入による価値転換、さらには市場環境の変化に応じた経営戦略の刷新——その節目ごとに、産地を牽引する中核的人材が育ち、次代へとバトンをつないできました。職人としての技能にとどまらず、デザインや経営、産地全体の方向性を考える人材が育ってきたことは、旭川の大きな強みです。

また、大学や専門教育機関との連携、産地内の人的ネットワークの形成は、若手の参入や新たな挑戦を支え、産地の内的多様性を生み出してきました。独立創業や新規参入が繰り返されてきた背景には、人と人とのつながりを大切にする旭川ならではの産地文化があり、工芸センターもその基盤づくりを支える役割を担ってきました。

近年、家具・木製品・窯業を取り巻く環境は、原材料価格の高騰や担い手不足など、これまでにない課題に直面しています。一方で、持続可能性やデザイン価値、地域性が改めて評価される時代でもあります。こうした変化の中で、工芸センターには、技術支援に加え、若手育成、情報発信、さまざまな地域との連携など、より多面的な役割が求められています。

70年の歩みは、工芸センター単独で築かれたものではありません。日々現場で技を磨いてこられた職人の皆さん、挑戦を続けてこられた事業者の方々、そして支えてくださった関係機関や市民の皆様のご尽力があってこそ、今日があります。ここに改めて深く感謝申し上げます。

私たちは、この70周年を新たな出発点と捉えています。これからの時代に求められるのは、技術を守ることにとどまらず、価値を伝え、未来へつなぐことです。工芸センターは今後も、地域のものづくりに寄り添い、産業の持続的な発展と旭川らしい暮らしと文化の創造に貢献してまいります。

創立100周年に向けて、皆様とともに歩み続ける拠点でありたい——  
その決意を胸に、70周年のご挨拶といたします。

---

## 旭川市工芸センターのあゆみ

- 昭和30年 「旭川市木工芸指導所」開設
- 昭和36年 豊岡3条3丁目(木工集団地区)に移転
- 昭和42年 「旭川市窯業指導所」が木工芸指導所敷地内に移転
- 昭和51年 木工芸指導所と窯業指導所を統合し、  
「旭川市工芸指導所」に改称
- 平成8年 旭川リサーチセンター内に移転
- 平成9年 「旭川市工芸センター」に改称



旭川市木工芸指導所（昭和36年）



# 技能実習・講習会の開催

優れた技術・技能を若手職人へ

全国で活躍されている熟練技術者や経営者のほか、当センター職員を講師に、実習・座学を開催しました。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

今後も木工・窯業業界の発展に寄与できるよう、ものづくりに関する様々なテーマで講習会を企画・実施していく予定です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

## 1 実習コース

### ①汎用木材加工機械基本操作実習

講師：当センター職員

実施日：令和7年5月13日(火)～23日(金)  
(うち5日間)

受講者：11名

汎用木材加工機械に関して、新入社員が知識を深めるとともに、中堅社員が操作方法や安全管理について再確認することを目的とした研修開催の要望があり、当実習を行いました。

クロスカットソー、リップソー、手押かんな盤、自動かんな盤、昇降盤、テーブル移動式丸のこ盤、帯のこ盤の7機種の操作方法のほか、機械作業時における服装の注意点などについても説明を行いました。

また、これまで使用していたテキストを、より見やすく構成を変え、文章だけではなく図を追加したことで、理解しやすくなったと好評をいただきました。



### ②ウッドターニング実技研修

講師：中島 信太郎 氏

(レジャー産業株式会社 代表取締役)

実施日：令和7年8月27日(水)、28日(木)

受講者：8名

受講者に事前に課題や目標を設定してもらい、講師に加工方法や必要な道具の紹介、使用法などを指導してもらう形式の研修を行いました。どの受講者も熱心に講師に質問をし、技術や知識の向上につなげていました。

脚ものをはじめ、浅い皿、お椀、コップ、ボウルなど、受講者が課題や目標として設定した様々な内容について、講師からマンツーマンで指導を受け、また他の受講者も話を聞きながら自身の知見を深めようとする姿勢が見られるなど、とても有意義な研修となり、また次回も受けたいとの感想も多くいただきました。



### ③木材塗装の基礎研修

講師：金盛 俊博 氏（株式会社共立商会 代表取締役）

実施日：令和7年9月9日(火)、11日(木)

受講者：6名

昨年に続き、塗装経験が浅い（ない）従事者の皆様に木材塗装の基礎技術を学んでいただく機会として、着色手板（ウレタン仕上げ）を仕上げていく実習形式（木地研磨→着色目止め→ガン塗装）の研修を行いました。

散孔材のシナ材（柔く吸い込みが強い）と環孔材のタモ材（硬く導管が深い）という異なる特性を持つ2樹種の着色手板作成を通し、道具の取扱いや工程について理解を深めていきました。

普段、加工担当者が塗装を行う機会は少ない（オイル塗装を除き）ですが、製品の最終仕上げである塗装技術を学ぶことで、その前段の工程において配慮すべきことが理解され今後の作業に活かされることを期待しています。

参加者のほとんどが本格的なガン塗装は初めてで、思ったような仕上がりにはなりませんでした。「座学ではわかりにくいことが、体験することで手ごたえのある学びになった」「失敗が多かったが、だからこそもっと上手くなりたいと思えるような貴重な体験でした」といった前向きな意見が多く寄せられました。



### ④トルコ青釉 -鮮やかな色彩と豊かな装飾性-

講師：当センター職員

実施日：令和7年11月5日(水)～26日(水)

受講者：8名

今回はトルコ青釉という一つの釉薬を軸に、座学を通して様々な切り口から迫り、受講された方々それぞれの視点で調合実習に取り組んでいただきました。

トルコ青釉は、酸化銅を着色材に用いた鮮やかな水色の釉薬で、ある時は澄み渡る青空を、またある時はきらめく海を連想させるようなその色合いは、多くの方々に親しまれ、注目を集めています。しかし、酸化銅を用いた釉薬は、織部釉に代表されるように落ち着いた緑色を呈することが多く、トルコ青釉特有の鮮やかな水色を得るためには、基礎釉の組成について理解を深めることが大変重要です。また、トルコ青釉の流れやすさや細かな貫入は、製品の欠陥につながりかねない一方で装飾性が高いため、その仕組みを理解し、用途を熟慮することにより作品の見どころとして生かすことができます。今回はこのようなトルコ青釉の特徴や魅力を知っていただくとともに、釉薬調合における実験・検証手法について理解を深めていただくことにも重点を置きました。その着眼点や手順は、例えば青磁釉や天目釉など、あらゆる釉薬に置き換えて活用できると考えています。

当初は受講された方々の多くが「釉薬の調合は難しい」「独自の調合を試したことがない」とおっしゃっていましたが、最終日には「自分らしい釉薬を調合することに興味がわいた」「チャレンジしようと思えた」などの意欲的な声が寄せられるようになりました。また、受講者間での情報交換も弾み、充実した研修会となりました。



## 2 座学コース

### ①木材接着の基礎

講 師：当センター職員

実施日：令和7年4月24日(木)～5月15日(木)

受講者：16名

概 要：接着用語や接着剤の種類・特性等の「接着理論」について、工芸センターで実施した試験結果に基づき説明しました。講習後、試験室で接着試験のデモを実施しました。



### ②木彫の世界～見て学ぶ伝統技術～

講 師：旭川木彫・工芸品協会

会 長 菅野 秀雄 氏（北都工芸社）

副会長 中川 貞司 氏（木彫ナカガワ）

上西 捷敏 氏（木彫の上西）

岩間 次雄 氏（工房がんま）

実施日：令和7年7月30日(水)

受講者：34名

概 要：旭川の伝統的な工芸品である「木彫」について、その技術や知識を間近に見て学ぶ機会として、講師4名に木彫りの実演をしていただきました。



### ③木灰の精製と灰釉の調合

講 師：当センター職員

実施日：令和7年10月1日(水)、7日(火)、  
8日(水)、9日(木)

受講者：13名

概 要：釉薬の原点といわれる「灰釉」をテーマに、木灰の精製手順と精製後の木灰で釉薬を調合する手法、地元の火山灰や川砂に木灰を調合した旭川らしい釉薬の開発に向けて理解を深めました。



### ④越境 EC で切り拓く地方産業の未来 ～旭川から世界35か国へ

講 師：永原 大介 氏（株式会社北廊 代表取締役）

岡本 大貴 氏（FedEx Express 営業部係長）

実施日：令和7年10月8日(水)

受講者：43名

概 要：平成18年に旭川家具を販売するインターネットサイト「MUKU 工房」を立ち上げた永原氏と、国際配送を担っている岡本氏を講師に招き、Eコマース市場で近年特に大きな割合を占めている海外販売について、越境 EC の現状や実務に加え、国内市場の縮小を見据えた海外戦略の必要性などについてお話しいただきました。





高強度が求められる接合部に使用される『α-オレフィン系』と『水性ビニルウレタン樹脂系（正式名称：水性高分子-イソシアネート系）』の強度・性能について質問を受けることが度々あります。今回、独自規格になりますが『耐衝撃試験』を実施しましたので、過去の試験データとあわせてご紹介します。

### 1. 接着剤の性状

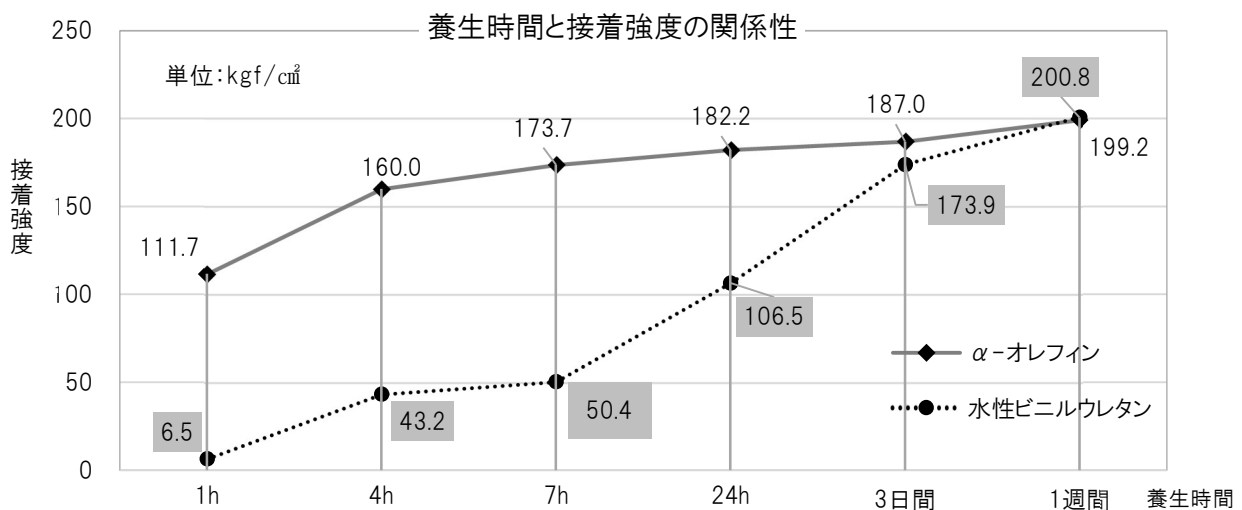
両接着剤の性状（特性）は下表のとおりですが、強度以外の大きな違いは『作業効率』と『耐水性』ではないでしょうか。2液性だと混合作業に加え可使時間（2液を混ぜ塗布できなくなるまでの時間）という制約が発生します。耐水性に関しては圧倒的に水性ビニルウレタンが優れている（※工芸ニュース Vol84・85 を参照）ため、湿度の高い環境下での使用・保管が想定される場合は一択になります。α-オレフィン系の塗布量に幅がありますが、椅子など構造物に使用する場合は 250~300 g/m<sup>2</sup> が適量です。

		α-オレフィン系	水性ビニルウレタン樹脂系
1	タイプ	1液性 エマルジョン形	2液性 硬化剤混合型
2	固化様式	【溶剤揮散型】 溶剤が蒸発・揮散することで接着剤成分が互いに接触し固まる	【化学反応型】 接着剤成分が反応（架橋反応等）することで固まる
3	不揮発分（粘度）	59~63%（11~23PS）	56~62%（40~80PS）
4	塗布量	180~300 g/m <sup>2</sup>	250g/m <sup>2</sup>
5	圧縮力（時間）	10kgf/cm <sup>2</sup> （15分以上）	10kgf/cm <sup>2</sup> （20~40分）
6	堆積時間	15分以内（夏季）	10分以内
7	耐水性	低	高
8	その他	切削可能時間 2時間以上（夏季）	養生時間 4日以上（25℃）

### 2. 養生時間と接着強度（圧縮せん断） ※試験方法・条件は工芸ニュース Vol83 を参照

両接着剤の養生時間と接着強度（圧縮せん断接着力）の関係は下図のとおりです。最大強度は木材破断の関係もありほぼ同等ですが、強度の高まり方は大きく異なります。

それぞれの特徴としては、α-オレフィンの硬化速度が早く、最大強度に対して 24 時間後には 90%を超えています。水性ビニルウレタンは『養生 4 日以上』という仕様のとおり、24 時間後までは架橋反応も不十分で 72 時間（3 日）後に対最大強度 90%を超え、その後さらなる強度の高まりを見せています。



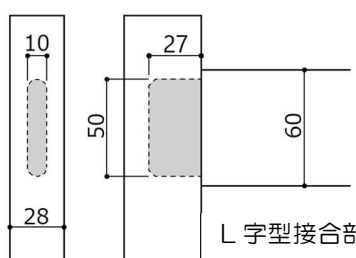
### 3. 耐衝撃試験（自主規格）

硬くて柔軟性のない接着剤は衝撃に弱いと言われています。今回、両接着剤の『耐衝撃性』を測定するため、楕円ほぞ接合部にハンマー衝撃を加える試験を実施しました。

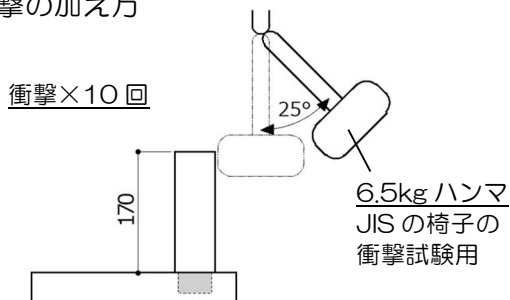
#### ●試験方法

- ①試験体：タモ材で楕円ほぞ接合による試験体（L字型接合部）を製作
- ②衝撃の加え方：椅子の強度試験（JIS S 1203）の「背もたれの耐衝撃性」に用いるハンマー（6.5kg）を25°振り上げ、ほぞ部材先端に衝撃を10回加える。
- ③強度試験：万能試験機にて最大荷重（荷重速度3mm/分）を測定

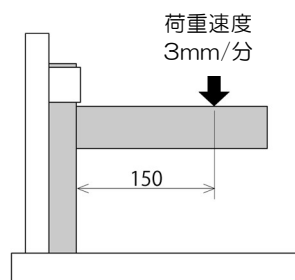
#### ① 試験体（材料による強度差を最小限にするため同じ板材から製作）

	樹種	タモ材（全乾比重 0.60 含水率 6.2%）
	接着剤	①α-オレフィン系 ②水性ビニルウレタン樹脂系 ※ほぞ、穴、胴付面に充分に塗布
	仕口	楕円ほぞ（嵌合度：幅・厚±0.0）
	養生期間	7日間（常温）

#### ② 衝撃の加え方



#### ③ 強度試験



#### ●測定結果（数値は供試体5本の平均値で小数第2位を四捨五入）

単位：kgf

No	接着剤	衝撃	最大荷重 (最大、最小)	比例限度 (最大、最小)	ほぞが抜け始める荷重 (最大、最小)	比例限度域での 1mmの変形に要する荷重
1	α-オレフィン系	なし	269.9 (290, 251)	166.9 (180, 142)	200.2 (208, 191)	52.3
		有	238.5 (257, 213)	153.2 (181, 133)	193.9 (220, 175)	45.8
2	水性ビニルウレタン	なし	283.9 (287, 280)	182.3 (194, 165)	220.8 (237, 211)	51.1
		有	272.3 (284, 266)	186.4 (201, 169)	219.7 (233, 204)	51.4

※比例限度：接合部が破壊されていない状態での最大値

※比例限度域での1mmの変形に要する荷重：この数値が高いほど試験体の変形度が小さい

#### ●まとめ

静的荷重：衝撃がない静的荷重に対しては、水性ビニルウレタンがα-オレフィン系に対し最大荷重（+5.2%）・比例限度（+9.2%）ともに優れた結果を示しています。

耐衝撃性：衝撃を加える前後の最大荷重比較ではα-オレフィン系は衝撃後-11.5%・水性ビニルウレタンは-4.1%、比例限度ではα-オレフィン系は衝撃後-8.2%・水性ビニルウレタン+2.2%と、静的荷重に続き水性ビニルウレタンが明らかに勝っています。

α-オレフィン系も強固な接着層と十分な接着強度を有する接着剤ですが、耐衝撃性も含め全般的に水性ビニルウレタンの方が優れている結果となりました。作業性の課題はありますが、衝撃や湿度の影響を受ける製品・接合部においては水性ビニルウレタンの使用をお勧めします。

10月に、地域で陶磁器製造に関わる方々に向けて、釉薬の原点といわれる「灰釉」をテーマとした講習会を開催しました。近年は環境へ配慮したカーボンニュートラルの取組や、炎のゆらぎによるリラククス効果、インテリアとしての魅力などから薪ストーブへの関心の高まりもあり、薪の灰を釉薬原料として使用することを想定して、その精製手順と精製後の木灰で釉薬を調合する手法について理解を深めました。今回は講義の中から、三角座標を用いた基本的な釉薬調合テストの手法とその焼成結果についてお伝えします。

- ・掲載したテストピースは、素地に信楽並漉を使用し、焼成は酸化 1250℃ (SK8) です。
- ・カラーの画像は、工芸ニュース Vol.89 web 版にてご覧いただけます。
- ・掲載したテストピース以外にも、市販の木灰を用いたものや還元焼成したもの、様々な着色材を添加したアレンジや、長石の代わりに地元の火山灰と川砂を用いたものなど多数のテストピースがあります。実物をお手に取ってご覧いただけますので、ご興味をお持ちいただけましたら、お気軽にお問い合わせください。

### 1 三角座標による基本的な調合テストの手法

#### (1) 調合する原料

基礎釉は、大きく分けて「ガラス質を形成する」「溶かす」「粘る」の3つの役割を果たす成分で構成されます。今回は以下のとおり、福島長石、木灰（地元産のシラカバを主としたもの）、わら灰の3つの原料を用いてこれらの成分を取り込むこととしました。

	各原料に含まれる主な成分			各原料の役割
	ガラス質	溶かす	粘る	
福島長石	SiO <sub>2</sub>	Na <sub>2</sub> O K <sub>2</sub> O	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	釉薬に必要な「ガラス質を形成する成分」「溶かす成分」「粘る成分」の3要素を含む基本原料。
木灰	(SiO <sub>2</sub> )	CaO MgO	(Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	長石だけでは不足している「溶かす成分」を主に供給する原料。「ガラス質を形成する成分」「粘る成分」もいくらか含むほか、基礎釉を構成する3要素以外では、鉄や燐酸等を微量に含み、淡い発色と乳濁をもたらす。
わら灰	SiO <sub>2</sub>	—	—	「ガラス質本体を形成する成分」を供給し、釉薬の流れを抑える調整や、分相による乳濁をもたらす原料。

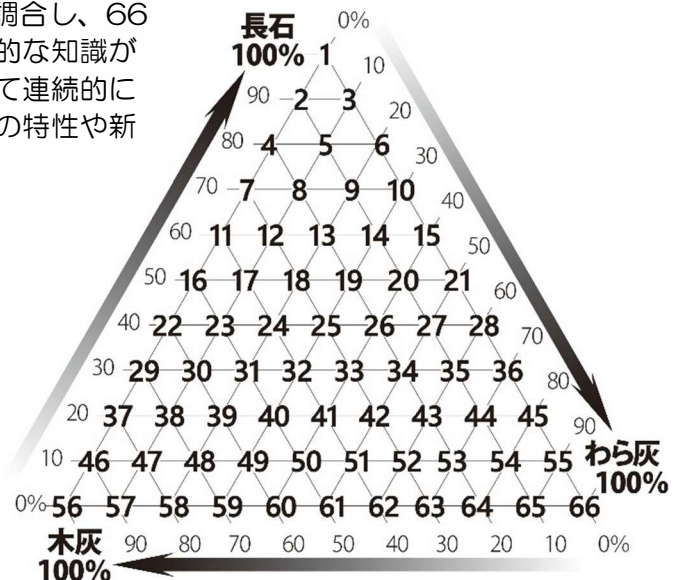
※ ( ) は副次的に取り込まれる成分を示します。また、「—」は0ではありませんが、ほとんど含まれていないことを示します。

#### (2) 三角座標を用いたテスト手法

右の三角座標で示すとおり、3つの原料の合計が100%になるよう、それぞれ0~100%間を10%刻みで調合し、66種類のテストピースを得ました。この手法は化学的な知識がなくても、各原料のはたらきと、調合割合によって連続的に変化する釉調を視覚的に理解しやすいため、原料の特性や新たな調合を探る際などに広く用いられます。

#### 三角座標の見方

- ① 3頂点はそれぞれ1つの原料100%で構成  
[例] No. 1 : 長石 100%、No.56 : 木灰 100%
- ② 3辺はそれぞれの辺を挟む2頂点の原料で構成  
[例] No. 7 : 長石 70% + 木灰 30%  
No.64 : 木灰 20% + わら灰 80%
- ③ ①と②を除いた三角形の内部は3つの原料で構成  
[例] No.12 : 長石 60% + 木灰 30% + わら灰 10%  
No.32 : 長石 30% + 木灰 40% + わら灰 30%





## 2 焼成結果

### (1)各原料の特徴と調合により得られる釉調

長石には釉薬に必要な3要素が含まれているため、100%でもある程度は溶けてガラス化しますが、溶かす成分が少ないため、溶け不足となります(No.1)。

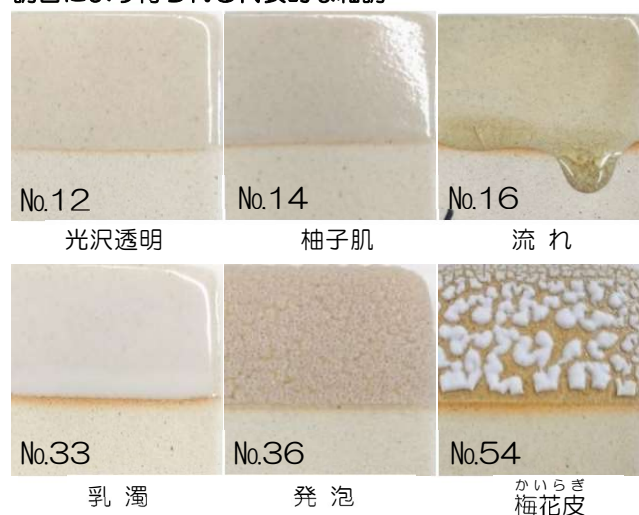
木灰を加えていくと溶かす成分が供給され、良好に溶けて光沢透明釉となり、50%あたりから溶け過ぎて流れます。100%になると溶かす成分が過多となり、ガラス質を形成する成分や粘る成分が過少となるため、ほとんどが流れ落ちます(No.56)。

わら灰を加えていくと溶け過ぎを抑えるほか、30~50%あたりで乳濁釉ができやすくなります。70%あたりから良好に溶けずに梅花皮状に縮れたりめくれたりし、90~100%になるとガラス質を形成する成分が釉の大部分を構成し、溶かす成分や粘る成分がほとんど含まれないため、融着せずに粉末状に浮いた状態となります(No.66)。

各原料 100%の釉調 (三角座標の各頂点)



調合により得られる代表的な釉調



### (2)焼成結果まとめ (三角座標上で釉調を領域分け)

#### 光沢透明 No.2, 4, 7, 8, 11, 12, 13, 17, 24

ガラス質本体を形成する成分・粘る成分・溶かす成分の3要素のバランスがよく、良好に溶けます。

#### 溶け過ぎ No.16, 22, 23, 29, 30, 31, 37, 38, 39, 46, 56

木灰が50%以上と多いため、溶かす成分が過多となり、溶け過ぎて流れます。

#### 乳濁 No.18, 19, 25, 26, 32, 33, 34, 35, 41, 42, 43

わら灰が30~50%と比較的多いため、ガラス質本体を形成する成分が多い領域となり、分相性の乳濁釉になります。

#### 柚子肌 No.5, 9, 14, 20, 27

木灰が10%と少なく、溶かす成分が不足し、粘性が高い釉となるため、焼成時に素地や釉薬から発生した二酸化炭素が気泡となって抜ける際にその跡が平滑になりきらず、細かな凹凸の柚子肌になります。

#### 溶け不足・発泡 No.1, 3, 6, 10, 15, 21, 28, 36

木灰が0%であるため、溶かす成分が過少、ガラス質本体を形成する成分が過多となり溶けづらく、非常に粘性が高い釉となります。そのため、焼成時に素地や釉薬から発生した二酸化炭素が気泡となって内部に閉じ込められたり、表面に留まったりします。

#### 梅花皮 (かいらぎ) No.44, 45, 53, 54, 63, 64

わら灰が調合の70~80%を占め、長石や木灰が少ないため、ガラス質本体を形成する成分が極端に多く、溶かす成分や粘る成分が微量となります。そのため、完全に溶け広げられず素地との融着が弱く、高い粘性と表面張力によって縮れたり、めくれたりして梅花皮状になります。

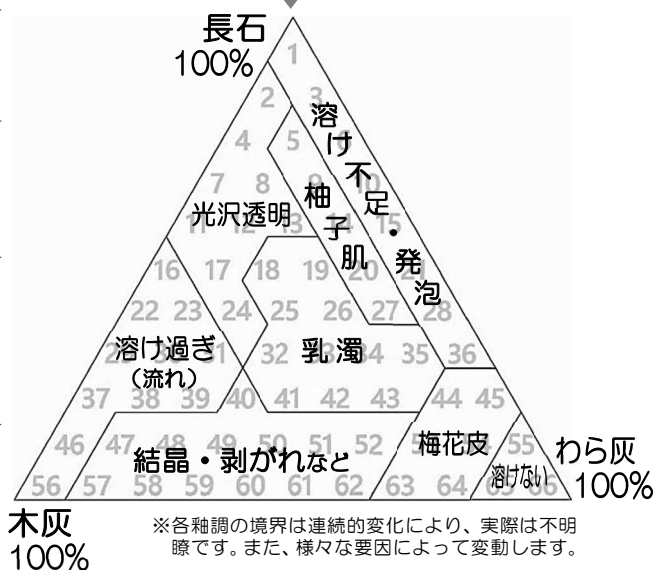
#### 結晶・剥がれ など No.40, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 57, 58, 59, 60, 61, 62

基本原料の長石が10%以下のため、粘る成分が少なく、木灰により溶かす成分が多くなったり、わら灰によりガラス質本体を形成する成分が多くなったりし、結晶の析出や、融着せずに剥がれるなど、不安定な領域です。

#### 溶けない No.55, 65, 66

わら灰が調合の90~100%を占め、ガラス質本体を形成する成分が釉の大部分を構成し、溶かす成分や粘る成分がほとんど含まれないため、高温で焼成しても融着せずに粉末状に浮いた状態となります。

三角座標上で釉調を領域分け



## 技能五輪全国大会への出場

### 旭川地域の木工職人たちの健闘

技能五輪全国大会が、10月17日(金)から20日(月)の4日間にわたり、愛知県常滑市の「AICHI SKY EXPO」で開催されました。

家具職種には旭川地域から6名が出場し、以下の結果になりました。

金賞	楠本 恭治 氏	(株式会社ウッドパーツ)
銀賞	小亀 弦 氏	(株式会社ガージーカームワークス)
	古川 琴葉 氏	(株式会社匠工芸)
銅賞	中川 仁 氏	(コーナス)
	高橋 溪純 氏	(株式会社匠工芸)
敢闘賞	佐藤 鈴奈 氏	(株式会社プレスステージジャパン)

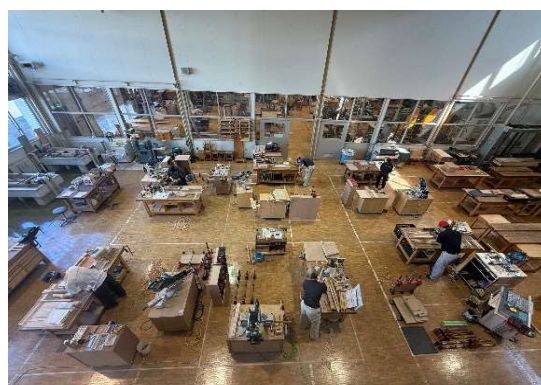
大会に向けた受入研修は、旭川高等技術専門学院と当センターに分かれて実施し、中川選手と小亀選手、高橋選手は9月から当センターで練習を開始しました。

練習では、課題であるキャビネットを制限時間内に精度と仕上がりが良い状態で完成させることを目標に、部分練習と通し練習を繰り返しました。また、途中2回、本番と同じ形式で6名が揃って合同練習を行い、緊張感ある雰囲気の中で技術・技能に磨きをかけました。

本番では、脚の形状や貫の位置などに課題変更があったものの、各々が加工手順や作業進捗状況の確認などをしっかり行い、無事2日間の日程を終えることができました。

結果は、目標に届いた選手もいればいない選手もいましたが、事前の練習や大会への出場を通して、それぞれの選手にとって貴重な経験となったことと思います。

また、金賞を受賞した楠本選手は、令和8年9月に上海で行われる国際大会「World Skills Competition in 上海」への出場が決まり、国際大会への出場は10大会連続で旭川地域からとなりました。上位入賞に向け、全国大会直後の11月から旭川高等技術専門学院にて訓練を開始しており、今後工芸センターとしても訓練補助などのサポートを行っていきたいと考えています。



### 1 工芸センター・オープンファクトリー

工芸センター創立 70 周年を記念する取組として、当センターの施設内を見学していただくオープンファクトリーを開催しました。

Meet up Furniture Asahikawa の「オープンファクトリー」事業に合わせ6月25日(水)から27日(金)の3日間にわたって開催し、業界関係者を中心に 44 名の方々にお越しいただきました。

材料試験室では、荷重を受けた部材が破壊に至るまでの応力変化をモニタリングしたり、製品試験室では、荷重や衝撃に対する耐久性試験のデモンストレーションや、海上輸送中のコンテナ内の温湿度環境を再現した恒温恒湿試験機の中に実際に入らせていただくなど、安全で丈夫な家具づくりの取組の一端を体感していただきました。

参加者からは、家具の開発や製品化の過程について理解が深まり、また試験を重ねて安全性を追求する各メーカー様のご苦勞を感じたなどの感想が寄せられました。

工芸センター・オープンファクトリーは、次年度以降も継続して開催する予定です。



### 2 旭川木工技能競技大会 2025

Meet up Furniture Asahikawa において、4回目となる木工技能競技大会が開催されました。

当センターでは、課題の案出や採点支援などを行いました。今回は、3 課題を事前に公表した上で、予選ではこの3 課題とそれらに変更を加えた 3 課題の中から、また決勝では事前公表課題に変更を加えた 6 課題の中から、当日に 1 課題をくじで決める方式での開催となりました。

5月11日(日)に旭川高等技術専門学院で行われた予選には 19 名が参加し、これを勝ち抜いた上位 12 名が、6月29日(日)の決勝に臨みました。

決勝の会場となった旭川デザインセンターには、真剣な眼差しで手を動かし時間ギリギリまで頑張る選手を応援しようと、同僚や家族を含めた多くの市民が訪れました。

嵌め合いや出来映えなどを採点した結果、山口智大さん(株式会社ガージーカームワークス)が優勝し、4連覇の栄冠に輝きました。



### 3 木彫りの源流 ～旭川木彫・工芸品協会展～

旭川木彫・工芸品協会が主催する「木彫りの源流～旭川木彫・工芸品協会展～」が、8月21日(木)から25日(日)までの5日間、イオンモール旭川駅前にて開催されました。

毎年夏休み期間に合わせて開催される同イベントでは、旭川の木彫の魅力幅広い世代に発信することを目的に、会員による作品の展示・販売や木彫りの実演などが行われています。

第8回目となる今回は、前回に引き続き会員4社が出展し、平日土日を問わず多くの来場者で賑わいました。アジア圏を中心とした海外観光客の姿も目立ち、個性豊かな作品に興味深く眺めている様子でした。

各ブースには熊やフクロウなどの伝統的な木彫作品を中心に、生活雑貨のほか、力士やセミといった珍しいモチーフの作品も並び、訪れる人の関心を惹き付けていました。例年人気の大型木彫とのフォトスポットも設置され、親子連れや観光客が作品に直に触れて感触を確かめながら、思い思いに楽しむ姿が見られました。



### 4 旭川陶芸フェスティバル

このイベントは「自然にやさしく、人にやさしく」をテーマに、やきものの普及と愛好家の拡大、やきものが持つ人と環境に対するやさしさへの理解を深めていただくことを目的として、旭川やきもの協会の主催で毎年開催しています。29回目を迎えた今回は、10月25日(土)・26日(日)の2日間、旭川地場産業振興センターを会場に102窯が出展し、10,000人を超えるお客様が来場されました。

電動ろくろ実演では、熟練窯元の技に見入るお客様で人垣ができ、絵付け体験コーナーでは、家族へのプレゼントづくりに励む方々や、自由な発想でのびのびと絵を描くお子様たちで賑わいました。

毎年好評の企画展は、北海道の秋の恵みをイメージし、出展窯元いちおしのスープカップを多数展示しました。お客様が作品を手に取り、お気に入りを見つけて売り場を訪ねる様子がしばしば見られたほか、抽選で展示作品が当たる人気投票では、投票用紙を求める方々や、目移りしながら楽しそうに作品を選ぶ方々で賑わいました。

新企画「切ってぴったり! 300g」では、来場された方々が2kgの粘土の塊から直感で300gを切り出すゲームで熱戦を繰り広げました。ピタリ賞は1名、±5gのニアピン賞は8名が獲得し、賞品としてお買い物券が贈られると、会場は感嘆の声と温かい拍手に包まれ、大いに盛り上がりました。

次回、記念すべき第30回を迎える旭川陶芸フェスティバルは、令和8年9月に同会場での開催を予定しています。



## 5 旭川冬のやきもの市

地元の方だけでなく観光で訪れた方にも旭川の陶芸を広く知っていただくことを目的として、イオンモール旭川駅前にて、12月13日(土)・14日(日)の2日間にわたり「旭川冬のやきもの市」が開催されました。

このイベントは旭川やきもの協会の主催により個性豊かな8窯が参加し、普段使いのカップやお茶碗、お皿だけでなく、オブジェやアクセサリ、植物ポットなど多種多様なアイテムを展示しました。

同会場でのイベントが初めてだったことに加え、10月下旬の「旭川陶芸フェスティバル」から日も浅かったためお客様が来てくれるか不安に感じていましたが、両日とも朝から多くの方がご来場され、お気に入りの一品を探し求められていました。中には、後日の工房見学を希望される方も見受けられ、初めての催事ながら目的は十分に達成できたのではないかと思います。

今回は令和8年10月24日(土)・25日(日)に同会場で開催予定となっています。



## 6 クラフト展 in ニセコ

旭川木のモノ組合が、インバウンドで賑わう冬のニセコで、クラフト製品の展示販売会を開催しました。

今後の海外への販路拡大を見据えて外国人の反応を確かめようと、2月18日(水)から21日(土)までの4日間、ホテル「ニッコースタイル・ニセコ HANAZONO」のロビーで、クラフト製品など約150点を展示・販売しました。春節休暇の時期と重なることもあり、およそ200人の来場者の大半がアジア圏を中心とする外国人で、家族連れの姿も目立ちました。

訪れた多くの方が実際に商品を手にとったり遊んだりしていただき、デザイン性やクオリティの高さを評価する声を多くいただきました。価格はあまり気にならないようで、中には30万円を超えるまとめ買いをした方もいらっしゃいました。

また、帰国後のオンライン購入や、今後旭川を訪問する際にはショップや工房を回りたいといった声も寄せられるなど、旭川のクラフトが海外の方々にも好評をいただけるという手ごたえを感じられた展示販売会となりました。



## 周辺自治体との連携

産地全体での発展を目指して

### 1 旭川市と音威子府村の木工芸の継承普及に向けた連携協定

旭川市と音威子府村は、木工芸の普及継承に向けた取組を相互に連携・協力して進めるため、7月7日に「旭川市と音威子府村の木工芸の継承普及に向けた連携に関する協定」を締結しました。

今後、両地域における木工芸技術の維持・確保、向上を図るため、様々な活動を展開していきます。



#### 【連携事項】

- 1 工芸センターで行う家具木工等の技術継承、普及のための講座に関する事
- 2 工芸センター職員による講師派遣等の助言指導に関する事
- 3 インターンシップの受入など家具木工事業者等との連携に関する事
- 4 技能五輪への出場など人材育成に関する事
- 5 木工芸におけるデジタル化の推進に関する事
- 6 その他、両地域における木工芸技術の維持・確保、向上を図るために必要な事項に関する事

### 2 旭川大雪圏域連携中枢都市圏での「家具等の製造技術の振興」に向けた連携

旭川市が鷹栖町、東神楽町、東川町、美瑛町との間に締結している「旭川大雪圏域連携中枢都市圏に係る協約」の中に、新たに「家具等の製造技術の振興」を位置づけ、令和8年度から同協約に基づく連携を開始することとなりました。

圏域の木工製品及び陶磁器製造業の従事者を対象とした研修会や技術相談等の実施のほか、工芸センターの職員を事業所に派遣し助言指導や情報共有を行うなど、圏域の事業者への支援を一層強化していきます。

## 製造業実態調査の結果概要

### 家具・建具製造業の令和6年度の状況

当センターでは、旭川地域の木製品製造業界及び陶磁器製造業界の実態を把握するための調査を実施しています。今年度は、家具製造業及び建具製造業の令和6年度の状況について調査を実施しました。お忙しい中、調査に御協力いただきました企業の皆様、誠にありがとうございました。

#### 1 家具製造業

旭川地域全体の推計総売上高は144億円（対前年△13.3%）と大幅に減少しました。主な要因としては、前年の販売価格の改定（値上げ）による駆け込み需要に対する反動減のほか、事業所の廃業や、長引く物価高騰や賃金の伸び悩みによる購買力低下などの影響があったと考えられます。

推計総従業員数は、1,309人（対前年△6.5%）と前年から大きく減少しました。主な要因としては、事業所の廃業や、新たに採用された従業員が少なかったことなどが挙げられます。

令和7年度の経営見通しは、受注増加、減少、変化なしを見込む割合が概ね同程度となりました。

#### 2 建具製造業

旭川地域全体の推計総売上高は23億円（対前年+15.0%増）と大きな伸びを見せました。コロナ禍の影響を受けた令和2年度、3年度には大きく落ち込んでいましたが、4年度以降は増加に転じ、6年度はコロナ禍前と同水準にまで回復した結果となりました。

推計総従業員数は、141人（対前年△4.7%）と、昨年から若干減少しています。

今後の経営見通しについては、半数の企業が減少すると回答しており、厳しい状況が見込まれています。

# 料金改定のお知らせ

令和8年10月から工芸センターの利用料金を改定します

旭川市では、市有施設の使用料・手数料について、サービスを利用する方と利用しない方との負担の公平性を確保するという観点から、4年を目途に見直しを行うことを基本としています。新型コロナウイルスの影響により見直しを見送っていましたが、このたび、令和8年10月から新料金の適用を予定しております。

工芸センターの使用料・手数料についても、下表のとおり変更となりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

## 1 機械使用料

(1時間あたり)

項目	現行料金	新料金	改定額	項目	現行料金	新料金	改定額
帯のご盤	460円	690円	+ 230円	そで付昇降盤	700円	1,000円	+ 300円
高速度単軸面取盤	450円	670円	+ 220円	高周波ルータ	940円	940円	+ 0円
卓上ボール盤	400円	600円	+ 200円	ストロークサンダー	720円	900円	+ 180円
リンク式横切丸のご盤	480円	720円	+ 240円	プレス機	1,250円	1,270円	+ 20円
高速丸のご盤	460円	690円	+ 230円	5軸制御NCルータ実験機	4,230円	4,480円	+ 250円
角のみ盤	420円	630円	+ 210円	炭酸ガスレーザ彫刻システム	2,670円	2,930円	+ 260円
ダボ孔ボーリングマシン	700円	890円	+ 190円	ワイドベルトサンダー	1,650円	1,720円	+ 70円
手押かんな盤	460円	690円	+ 230円	長円ほぞ取機	850円	1,270円	+ 420円
自動かんな盤	550円	820円	+ 270円	自動長穴明機械	780円	1,170円	+ 390円
4軸ほぞ取盤	580円	870円	+ 290円	コーナーロックングマシン	780円	1,170円	+ 390円
エッジベルトサンダー	630円	940円	+ 310円	糸のご盤	430円	640円	+ 210円
リップソー	540円	810円	+ 270円				
4点式万能帯のご盤	520円	780円	+ 260円	耐光性試験機	890円	1,120円	+ 230円
倣い旋盤	設定なし	1,270円	(新設)	振動試験装置	4,600円	4,900円	+ 300円

## 2 木工試験分析等手数料

種類	項目	条件	現行料金	新料金	改定額
材料試験	強度試験	5 試料まで	910円	1,360円	+ 450円
	含水率測定試験	1 条件 5 試料まで	550円	820円	+ 270円
	吸水試験	1 条件 1 試料	490円	730円	+ 240円
	乾燥試験	1 条件 1 試料	310円	460円	+ 150円
製品試験	繰返し衝撃荷重試験	1 条件 1 試料4,000回ごと	2,640円	3,960円	+ 1,320円
	静的強度試験	1 条件 1 試料	1,240円	1,860円	+ 620円
	衝撃試験	1 条件 1 試料	1,240円	1,860円	+ 620円
	耐久性試験	1 条件 1 試料12,500回ごと	5,520円	7,030円	+ 1,510円
環境試験	恒温恒湿処理試験 (大)	5 試料まで 1 日	2,560円	3,840円	+ 1,280円
	恒温恒湿処理試験 (小)	5 試料まで 1 日	2,500円	3,750円	+ 1,250円
	恒温水槽試験	5 試料まで 1 日	450円	670円	+ 220円
接着・塗膜試験	接着力試験	1 条件 5 試料まで	910円	1,360円	+ 450円
	塗膜強度試験	1 条件 5 試料まで	400円	600円	+ 200円
	耐摩耗試験	1 条件 1 試料5,000回ごと	420円	630円	+ 210円

(いずれも令和8年10月1日改定予定)

## 1 工芸センター運営委員会

工芸センターでは、センターの運営や事業計画の策定に関して業界団体などから幅広く意見を聴く場として、関係機関や団体、教育機関からの推薦などによる委員で構成された「旭川市工芸センター運営委員会」を設置しています。

令和7年度は8月19日(火)に会議を開催しました。会議の詳細はホームページからご覧になれます。

また12月1日に、任期満了に伴う委員改選を行いました。任期は令和9年11月30日までの2年間です。



【旭川市工芸センター運営委員名簿（改選後）】

（敬称略）

＜業界関係者＞		＜学識経験者＞	
旭川家具工業協同組合	若狭 弘典	北海道教育大学旭川校	小泉 匡弘
旭川家具工業協同組合	木村 亮三	北海道立 旭川高等技術専門学院	澤田 貴之
旭川建具事業協同組合	石黒 裕規	旭川市立大学	遊佐 順和
旭川木のモノ組合	佐々木雄二郎	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場	河原崎 政行
旭川地方木材協会	宮島 真	北海道科学技術総合振興 センター（ノーステック財団）	扇谷 悟
旭川やきもの協会	滝野沢 泰子		

## 2 人事異動報告

工芸センター職員の令和8年4月1日付け人事異動は次のとおりです。

### 【転入・昇任】

所長 小関 敬之（昇任）  
 主査 佐藤亜沙美（昇任）  
 主査 柴田 裕之（財政課より）  
 大越 晃（農業振興課より）  
 中條 尚之（国民健康保険課より）

### 【転出】

内田 和博（科学館へ）  
 佐原聖二郎（公園みどり課へ）  
 野澤 早織（工業技術センターへ）

## 工芸ニュース 第89号

発行：令和8年3月 旭川市工芸センター

〒078-8801 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

TEL：0166-66-1770 FAX：0166-66-1776

E-mail：kougeicenter@city.asahikawa.lg.jp

HP：https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/364/365/369/d053192.html



ASAHIKAWA  
CITY